

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

地方回帰を進め企業の競争力を強める 坂根 正弘 (コマツ相談役)

1. この国には基本的な問題が 2 つある。一つが、東京への一極集中だ。企業や若者が地方から東京へ進出し続けた結果、地方の産業、特に一次産業が衰退した。一方で、東京では晩婚化、少子化が加速してしまった。もう一つの問題が、20 年近いデフレ経済でモノ作り企業が日本の競争力に自信を失い、投資先が海外に偏ってしまっていたことだ。
2. 私がかねて「地方創生なくしてこの国の復活はない」と主張しているのも、この問題に早くから取り組んだ経験があるためだ。地方回帰は日本の構造問題を解決する突破口になる。地方回帰は経済合理性を伴った、企業の自衛手段でもある。生活コストの低い地域に社員がたくさんいることが、長期的に見れば企業のコスト競争力にプラスに働くだらう。人手不足が深刻になった時でも、採用に苦しむことはない。
3. 地方で企業に求められる新たな役割も見えてきた。2013 年から石川県で農業や林業を支援している。我々のモノ作りの知恵を生かした野菜や果物の加工工場や、コマツの建機を使っての造成や、イノシシよけのフェンスの設置を手伝っている。安定して人材を採用し続けようと思ったら、若者が地元に着定するための土壌作りを手伝う必要があるためだ。私がよく「ドイツに学べ」と言うのも、ドイツは戦後、地方主権でスタートし、特色ある企業がバランスよく地方に分散しており、大学もこれに合わせる形で、特色を持っているからだ。
(参考:「日経ビジネス」2014 年 8 月 4 日号)

営者のための理念・哲学

困難は解決策を連れてくる

1. 日本電産の永守重信社長に質問した。「日本電産は、なぜものすごいスピードで伸びているのか。何かトヨタのカンバン方式のような秘密があるのか」と。永守社長は、「そんなものはない。たったこれだけや」と言って一枚のパンフレットを机の上に置いた。そこにはこう書かれていた。「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」。
2. 困難な状況においても何かしら行動を起こせば解決策は必ず出てくるというのが、永守社長の持論である。「向こうから困難さんがやって来る。誰でも困難から逃げたい。だから君も困難から逃げたいだろう。しかし困難から逃げてみる。困難さんは脇を通り過ぎて行くが、ひょっとその背中を見たら、後ろに解決策というリュックを背負っているじゃないか。逃げたら解決策も逃げて行くんだぞ」。心したいものだ。

(参考:「致知」:2014 年 10 月号)

人事・労務について

働かないオジサン (シニア社員) の影響

1. ある大手通信会社のグループ会社の職場では、別のグループ会社から出向してきた中高年の社員が多い。職場の誰もが知る、押し付け人事だ。「毎日、仕事をしているようには見えるのですが、結果が出ない。よくまあ、ずっと仕事のふりを続けられるもんだと感心しました。しかも、同じように出向してきた社員同士で、仕事のなすり付け合いをする始末で…」と 30 代後半の女性社員はため息をつく。
2. 今、職場で働かないオジサンへの不満が高まっている。中でも被害が大きいのが、周囲に攻撃してくるケースだ。つい最近、定年後再雇用のシニア社員 (部長職経験) がある課へ配属になった。日頃は体を動かさない (シニア社員) のに、企画会議では「そんな奇抜な企画、本当にできるの?」「費用がかかり過ぎる」などとことごとくダメ出しをし始める。いずれは、「働かないオジサン」への不満が上がり、士気低下による生産性低下ひいては企業の競争力低下を招きかねない。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2014 年 8 月 2 日号)

古典に学ぶ

柔弱は生の徒

(解説) 人の体は生きている間は柔らかい。だが死ねば堅くこわばる。草木は生きている間は柔らかい。だが、死ねば堅くひからびる。堅く強いものは、死のともがらだ。柔らかく弱いものは、生のともがらだ。武力を誇る者は滅び、堅い木は折れるではないか。弱小は強大に勝つ。これが自然の法則である。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)